



昭和54年1月1日

編集／発行

岡崎市教育委員会

「秋まつり 地づきうたで

ヨーゴザンショ」

読みあげるより早く

「あ、あそこ、あそこだ！」

「あつた！」

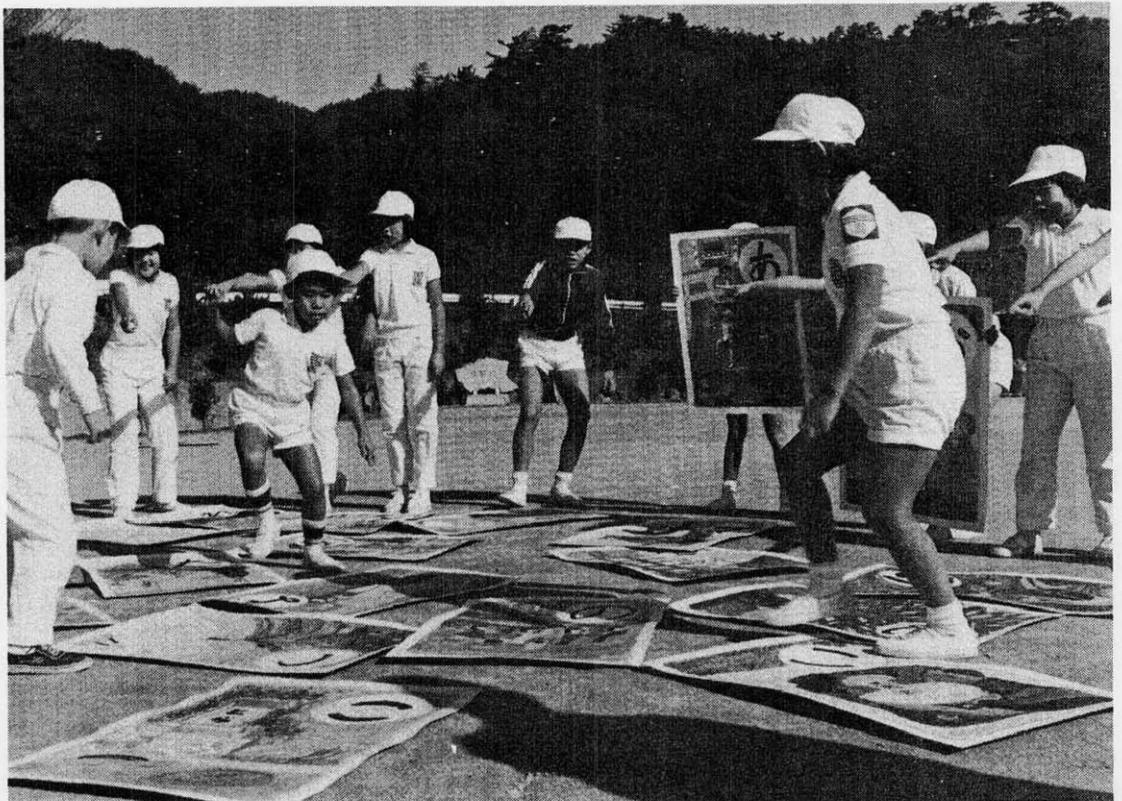
運動場一面にこだまする喚声  
児童集会の大かたるたとり大会  
ふるさとの史跡や伝説を  
遊びながら学びとる ふるさとかるた

「つり天狗 そこはホテルの

お宿だよ」

「うつくしく そびえ立つ山

三河富士」



(ふるさとかるたで遊ぶ 生平小)

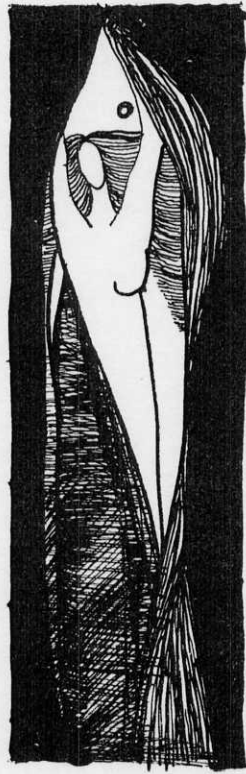
子供には若い力がみなぎっているので働きが活潑である。生命力が強いのだ。子供を見ていて楽しいのは、この強い生命力に触れられるからだ。スポーツは、やって気持がよく、見て面白い。これも生命力の躍動だからだ。

老人になると生命力が衰えて動きが鈍くなるので、見ていて楽しくない。疎外

## — 教育随想 —

## 生命力

蛭川幸茂



され勝ちなのはその為だ。孫の遊びの相手をする場合も、孫以上の動きが出来て、而も孫の心になれる場合はうまく行く。その場合でも時がたつにつれ、孫の動きは激しくなるのに、老人は鈍くなって、釣合が取れなくなってくる。手離す時が来たのである。これを離すまいとして、孫の動きを制限しようとする老人がよく

あるが、こんな事をするとう生命力のない子供が出来てしまう。

親が子供を育てる場合だってそうだ。親の生命力の方が強い間は立派に育てられる。併し何時かは子供が成長して親を乗り越える時が来る。それが子供を手放して独立させるべき時なのだ。それをわきまえずに、何時までも自分の支配下に

第二に、子供の心になることが出来ること。

これらは半ば天性のものだが、心掛け次第では後天的に作る事が出来る。スポーツで自らを鍛える事は、生命力を充実させる事で、いくら鍛えても過ぎるという事はない。スポーツをやる体力も気力もない様では、初めから失格だ。

教師も曾ては子供だったのだから経験はある筈なのに、それを忘れて、俺は大いだから偉いんだ、という顔をしたら、子供はついて来ない。子供の心になるといったが、本当は、子供の心であるというべきだろう。これは思いやりの心に通ずるもので、これがなければ教師失格である。

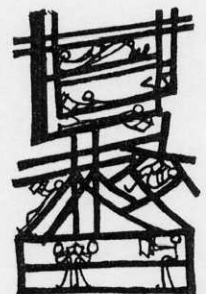
ところが、この思いやりに欠けた教育が行われている場合が案外多い。

二つだけ例を挙げて見よう。

川で遊ぶな、川に近付くな、という。川は子供にとって絶好の遊び場所ではないか。こういう所で自然を相手に遊ばせるのが本当の生きた教育ではないか。何あぶないって？泳げる様にしておけばいいんだよ。

廊下を走るなという。子供は生命力に満ちているので走らずにはおれないのだ。走ったってちっとも差支ないではないか。それが目障りになる大人は、既に生命力が枯渇していて、子供の心になれないのだ。こういう大人は教師たる資格に乏しいし親たる資格にも欠けるといわねばなるまい。

(愛知学院大学教授)



「一生けん命だったもんねー」

山本 禎夫

「先生、宿題忘れずに、ちゃんとやって来たよ。」

「うん。でも何か忘れてないかね。」

「あつ、そうだ。お早うございます。」

「お早う、もうないよねー。」

「エーッと、あつ、しまった。今日は集金日だったっけ。忘れちゃった。すいませーん。」

ひとつの事に熱中すると、他のことは全部忘れてしまうO君。人気抜群のO君。

そのO君、朝から大張り切り。それもそのはず。一年一回の父親学級に、遠距離勤務で一週間に一回しか帰宅しない父親が出席してくれるからだ。

算数の参観授業では、手をあげればなし。指名されると、元気いっぱい返事。そして答え、終わり近くになってまどめのため教科書をひとりの子に読ませた。読み終わったらたん、突然O君が大きな声で、

「よろしい！」

おもわず他の子供たちも、

「よろしい。」

ふるさとの自然



ザクロ石 (1月の誕生石)

二疊産

う合成鉱物で代用している場合がありますが、石工団地ではこの金剛砂を石にふきつけて文字を彫っているようです。鉱物が硬い(硬度六・五〜七・五)から研磨材として重用されているわけですがそれでも「寶石」の基準、硬度八にはおおよばないので、準宝石の仲間に入られています。

岡崎市内には、寶石になるほど粒の大きく、結晶のしっかりしたザクロ石は産出しませんが、それでも色と透明度ではとても美しいものがあります。それも、岡崎石と呼ばれている、岡崎市の土台をつくっているカコウ岩の中の副成分鉱物としてかなり普遍的に含まれているので

カコウ岩というと、灰色で透明なセキエイ、白くて不透明なチョウウ石(厳密には正長石と斜長石)とから成り立ち、その中に、白ウンモと黒ウンモが点在していることは誰れでも知っています。セキエイ、チョウウ石、ウンモは肉眼で容易に見分けることができるので主成分鉱物といいますが、このカコウ岩を薄片にして顕微鏡で観察すると、この三鉱物以外にもザクロ石、燐灰石、ジルコン、モナズ石などが含まれていることがわかります。

この中で、ザクロ石だけは、カコウ岩の標本を丹念に調べれば、肉眼でも発見できるのです。

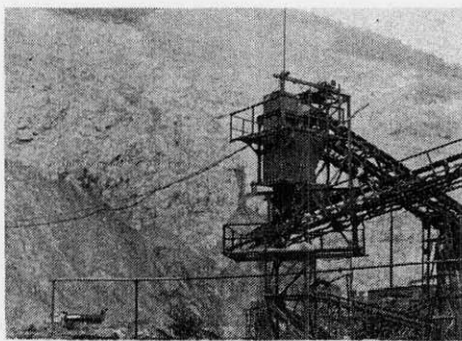
この種のザクロ石は、市内のよほどのカコウ岩の中でみつかることができますが、特に片麻岩の中に併入している岩脈

や細脈の中には粒の大きいものがあります。二・三紹介すると、

・郡界川上流の二疊産、この上段にはセキエイ、チョウウ石とザクロ石からなる半カコウ岩の岩脈があります。一〜二ミリほどの紫紅色の美しい結晶がかなり含まれています。

・新箱根、市域からわずか出ますが、鶴田石材の採石場の碎石中によく見かけます。ここから遠望峰山にかけての尾根には、ザクロ石だけでなく電気石の黒い長柱状の結晶も産出し、鉱物採集に格好の場所です。

台座についた、高価なガーネットもけっこうですが、自分の手で岩からかき取ったガーネットも、違った価値があると思います。休日などを利用して、この「準宝石」を手に入れてみませんか。(竜海中 岡田 耕一)



鶴田石材の採石場

「あつ、しまった。答え合わせじゃなかった。すみませーん。」  
みんなも気がついて、大爆笑。(愛宕小)

部活動より

鈴木尚子

朝七時五十五分。背中を丸めて職員室へ急ごうとする私に、運動場で早朝の部活動をしている生徒達から、  
「先生、おはようございます。」  
「おはようございます。」

と元気な声が飛んで来る。  
平生、部活動で勝つためには、自分を徹底的にいじめよ」と生徒に言い聞かせていたことに後ろめたさを感じ、

「ああ、おはよう。」  
と小さな声で応対する始末となった。  
冬場の練習は北風と寒さのため厳しい。凍えた手に軍手をはめ、ボールと戦っている。この冬場を乗り切るためにたいへんな努力である。

「先生、強いアタックを打つためにはどんな補強をしたらいいですか。」  
「トスがうまく上がらないので教えてください。」

こんなに一生懸命な生徒の姿を見ていて反省させられたり、励まされたりしながら毎日を送っている。一分でも、一秒でも長くコートに立ちたいと思いつつながら。

(南中)



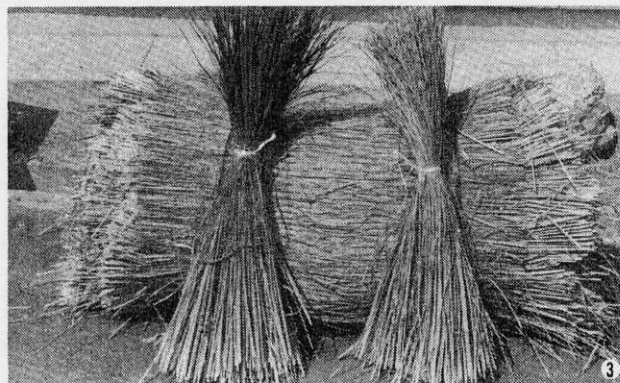
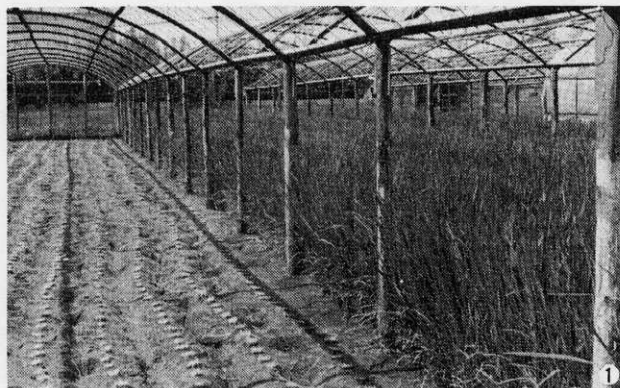
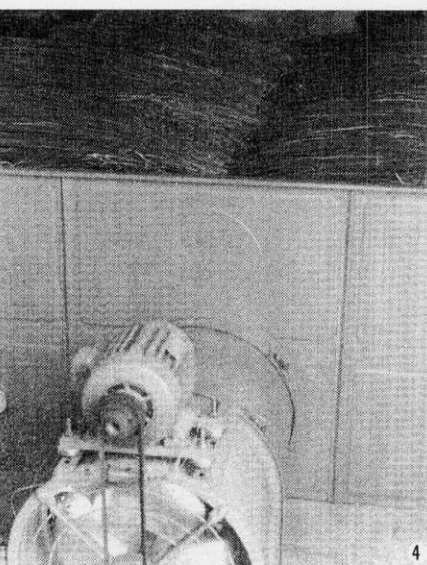


⑫ しめなわ

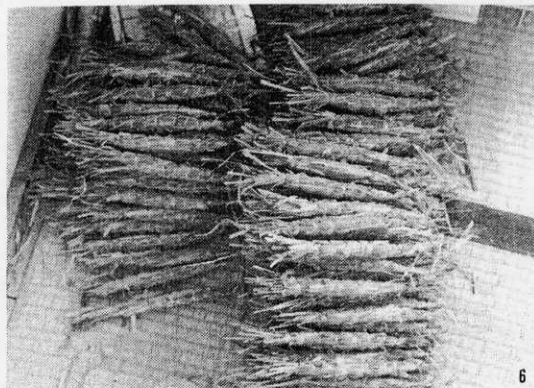


大門のしめ縄作りは、明治の頃、伊勢神宮へ参拝した人々たちによってこの地にもたらされたと伝えられている。現在しめ縄を作っている農家は、中大門・下大門を中心に三十八軒・しめ縄組合を作って、市場・スーパー・花屋などへ共同出荷している。

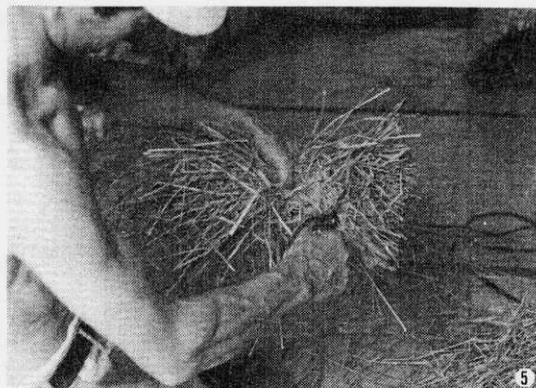
しめ縄の材料は青刈りした稲であるが、種類は腰の強さなどから、もち米のわらを使用している。これを七月から八月にかけて青刈りし、乾燥させる。以前は天日乾燥であったが、現在では、色のあがりの良さから、火力乾燥が多く使われている。それを倉庫の二階などの暗室に保管する。







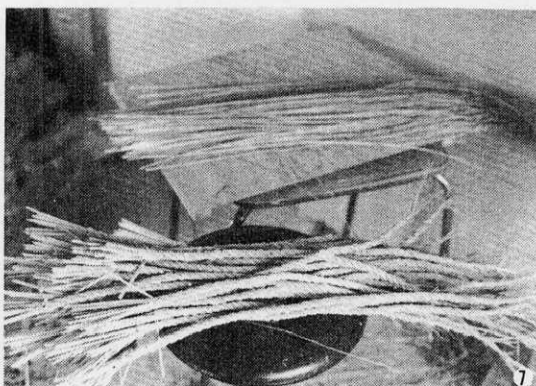
6



5



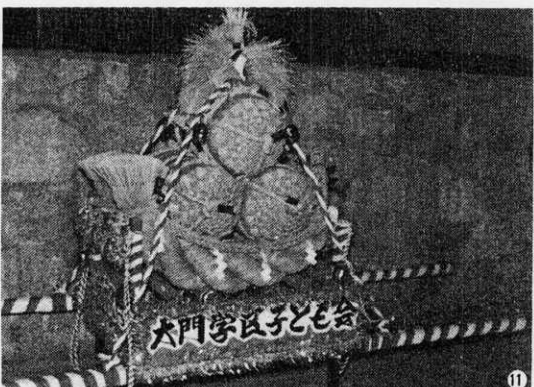
8



7



9



11

① よく育った稲を刈る。七月から八月にかけての夕方の仕事。暑い日さしの中で天日乾燥。  
 ② 乾燥した稲わら。青い仕上げが美しい。むしろにつつんで保管する。  
 ③ 夏の暑い納屋の中の火力乾燥。わらくずをきざんで材料準備。  
 ④ きざんだわらくずをしぼって、しめ縄の「しん」を作る。  
 ⑤ 輪じめの材料作り。左縄。  
 ⑥ 冬になって作業も本格化。  
 ⑦ 大根じめ。年期の入った仕事ぶり。御幣、のし、造花をつけて仕上げ。岡崎まつりのために作られたしめ縄みこし。一週間かけて作られた傑作。



10

## 書く喜びを持つ子に

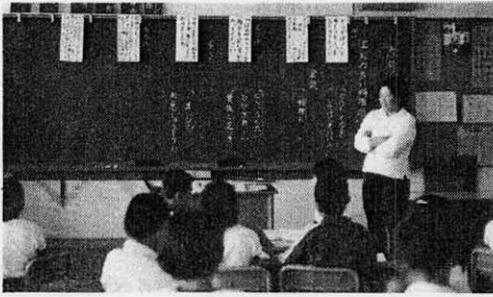
城南小 本多光子

「先生、今十三枚でまだ一日目のことだよ。」

「ぼくも十一枚で、まだ、奉仕作業のときだよ。」

「ぼくね、初めて二十枚に挑戦しちゃった。これはぼくの本だ。」

と作文嫌いなM君までも得意顔。山の学習後の作文の自慢話である。楽しい体験を綴るため、どの子の顔も生き生きし真剣そのものである。筆の進み方も速い。早く、たくさん書くこうという気



持ちが溢れている。

いろいろな場で、「書くことにより思考を深める子」をめざしてきたが、その効果が少しは表れて来ただろうかと思うこの頃である。

「書く」ことの抵抗は大きいし、個人差も大きい。何とか書くことに抵抗をおぼえずできる子にしたいと願ひ努めて来た。

書く速度を高めるために、五分間視写を試みる。筆を運ぶ抵抗を除き、よい文章にみせさせ、文章のリズムを感じさせるためである。初めは、本とノートの間を首より人形のように見えてばかりいた子も、長く把握して書けるようになって来た。この五分間、全神経を集中し鉛筆の動きだけで物音ひとつしない。私はこの時の子供の表情が大好きである。今は百八十字ぐらい書くことができる。

常時活動として、日記を通して書く力を育てるようにしている。日記のノートの山を前にし、子供達の語りかけを期待し、一冊ずつ（一人ずつ）に対面するひとときも楽しみである。しかし、一同じことばかり……まちがえだらけの字に腹を立てて読むこともしばしばで、指導のゆき届かないことに歯がゆさを

おぼえ、朱書きを入れている。日記を返すと、まっ先に、朱書きに顔をつけるようにして読んでくれる子を見るにつけ、せめて、朱書きをたくさん書き、書く喜びを持たせなくてはと思うのである。

また、授業の中でも、書く場を設けるようにして、あらゆる機会を通して書く力を育てているが、まだまだ、牛歩のような効果しかない。子供達の様子に一喜一憂し、次の課題を模索中である。

## 教育日々



### ねばり強く

常磐小 奥村秀夫

「先生、今日クラブやるだろ。」

「もちろんやるよ。」

「先生、今日はどこ走る。」

「裏山を回ってくるかな。」

「わあーい。」

山の子は山が好き、という

歌の文句ではないが、常磐の子はみんな山が好きだ。

「A君、今日は川へ落ちるなよ。」

「まあ落ちやへんよ、先生。」

「さあ、みんなに遅れんように出発だ。」

四年生以上で、総勢十二名の

陸上クラブ員は、クロスカントリーと称し、今日も山道进行。

自然環境に恵まれた本校は、クロスカントリーのコースに不

自由はしない。山を上り、坂を走り、小川を渡り、その時々によつてコースを変えることもできる。

ところで、この土地の子どもは、こうしたよい環境の中に育

っているので、町中の子どもに比べて、素朴で純真である。こ

れは、何も常磐の子だけではないが、山の子の一般的傾向であ

ろう。

だが、意外と野性味が少なく体力的にも、かえって町中の子

よりも劣る面もある。したがって、粘り強さがない。

「先生、えらい。休ませて。」

「何いっとるだ。あと一いき。」

「先生、まあ帰らまい。」

「だめだめ。」

体育の時間など、往路二十分復路二十分ちょうど一時間終わる。このころでは、どのこも、

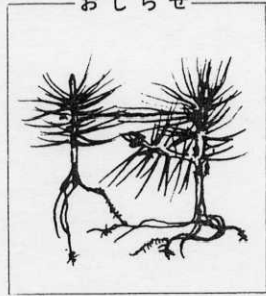


クロスカントリーを楽しみにしている。

例えば、名古屋から転校してきたS夫。むこうの学校では、体育が嫌いであったそうだが、母親のことばによると、走るようになってから、好きになってきたとのこと。

山のきれいな空気と、美しいみどりは、確かに子どもを育てているのであろう。

本校では数年前から、地元産業である石を図工教材にとり入れている。石は、小細工がきかない。粘り強く、こつこつと彫らなければならぬ。だから、粗野で荒々しいが、たくましさや根気強さも育っていくのではないかと思う。



## 緑化推進宣言都市の決意新たに 学校環境緑化コンクール受賞校座談会

岡崎市は、昭和四十八年緑化推進都市を宣言し、市長さんを先頭に市民ぐるみの緑化運動を積極的に進めている。

こうした時機に、過去、全国学校環境緑化コンクールで特選校(全国一)となった九校と、本年度、県の特選校に選ばれた二校の緑化担当者が出席して学校緑化推進座談会が開催された。はじめに、緑化の重要性が強調され、「環境は人によって造られ、人は環境によって育てられる。更に緑の街づくりをめざしたい」という、内田市長の力強いあいさつで座談会に入った。

- ◇「寄贈刊物・資料」
- ◇丈夫な子に育てる―やわらかさ・つよさ・がんばり―三島小
- ◇自己実現をめざす教育―マイタイムの活用― 東海中
- ◇視聴覚教育実践記録 現職教育視聴覚部

昭和53年度都市美化啓もう作

みて緑の羽根募金に取り組み、当時(昭三六年頃)で三〇〇〇〇万円集めた。(葵中、城北中) 話や、「広大な土地の利用や湿地帯で苦勞した。」(井田小、連尺小、城北中)等、思い出話はつきない。また、「生徒の手による緑化活動。」(福岡中、奄海中)、「生きた理科教育の場として整備した。」(愛宕小、矢南小)「サーキットコース・芝生の運動場で体力づくりをねらった。」(甲山中、三島小)話等現場の教育と直結した積極的な緑化活動、さらには地域と密着した「あじさいの里作り」も紹介された。

文集「ぼくのこえわたしのねがひ」

岡崎市民運動推進連絡協議会・都市美化協会・市教委編。B5判・22頁の都市美化作文集

◇できる学習指導の研究と実践―魅惑する学習をめざして―

矢作中

### 昭和53年度

#### 県教委教育論文審査結果

第12回愛知県教育論文の審査が終り、昨年度に続いて今年も十名の先生方が入賞した。

応募点数、入賞点数共に他都市に一頭地を抜いていることも昨年同様であるが、最優秀賞を逸したことは悔まれる。

喜び溢れる入賞者を紹介してその努力に敬意を表したい。

#### 優秀

◆「仲間意識にあふれた学級づくり」

◆「佳作」

◆「実践的・体験的な家庭科学習の追求」

◆「自己評価活動による主体的な社会科学習の実践」

◆「六ツ美中・杉浦健支教諭、豊かな食生活を営むために」

◆「甲山中・蜂須賀千代子教諭、「個の変容をめざす道徳指導」

◆「美合小・鈴木松三教諭、「子ども学習意欲を増し、技術の習得

をめざした内燃機関学習」

◆「社会事象を見つめる力を育てる地域学習」

◆「根石小・佐々木俊輔教諭、「一年生における20分間読書」

◆「根石小・一年担任代表柴田はな子教諭、「学校環境の整備・充実と活用」

◆「甲山中・学習環境研究部代表鈴木健三教諭、「歌ごころより豊かな表現力をめざして」

◆「六北小・音楽部代表鈴木聡一教諭

◆「英語に強い人々」

◆「去る12月9日、第16回中学校・高等学校教員英語スピーチコンテスト」

◆「矢中藤田吉信教諭は、全国五人の優秀賞に輝いた。」

◆「11月3日、東海三県中学生英語弁論大会において、東海中三年・大須賀倫子さんは、参加者72名中第二位で堂々入賞した。」

◆「11月16日、第15回全国学校放送教育研究大会で、三島小牧野伊佐夫教諭と城北中佐野旭教諭が、それぞれ日本放送教育協会長賞と入選の栄に浴した。」

◆「藤川小学校研究発表会 一月二十六日、▽主題「子どもの中の学校図書館、▽内容「朝の読書」公開授業、研究発表・分科会・S.L.Aあいさつ・講話

●53年度健康優良児童・生徒

●53年度よい歯の児童・生徒

区分	●53年度健康優良児童・生徒				●53年度よい歯の児童・生徒					
	小	中	別	子	小	中	別	子		
岡崎一	小	矢南小	坂田勝彦	根石小	角谷紅未子	小	福岡小	成瀬雅章	井田小	曾我明子
	中	甲山中	大山洋之	附属中	鈴木和子	中	葵中	宮地俊幸	附属中	佐々木一子
準岡崎一	小	六名小	高月邦明	矢西小	鳥居晶子	小	奄美丘小	山田啄	細川小	大月美保
		惠田小	柴田善行	緑丘小	佐々木業名代		奥殿小	小原隆明	岩津小	川口真朱美
	中	東海中	青山徹	美川中	多田井美砂	中	香山中	加藤正一	甲山中	永田聖子
		附属中	大久保稔	福岡中	時原鉄也	中	岩津中	加藤徹也	岩津中	今井ひろみ



# 酒人神社

酒人神社は、食物の神様と酒人親王とを祀る。酒人親王は、六世紀ごろ、中国から酒づくりの技術などをもって日本に帰化した阿知使王の子孫で、朝廷の支配力が全国におよぶにつれてこの地に移り住むようになった。酒づくりの技術をこの地方に初めて伝えたところから、神社の祭神として祭られた。

当地が今も「坂戸」と呼ばれるのはこのような時代的背景があり、最初に美酒がつくられた

村といわれているからである。

年中行事としては、祈年祭、大祭、新嘗祭などが行なわれる。「酒祭り」の行事は、近年では市の観光行事と協賛して、東公園や菅生川河川敷で行なわれるようになった。各地の酒造元から数多くの四斗樽が積み上げられるのは壯観である。

この「酒祭り」に酒を振舞うのではなく、甘酒で人々を接待するのも時代の推移といえよう。



所在地一岡崎市島坂町

点

●カット

大門小

富田久美子

## この本を

- |             |             |
|-------------|-------------|
| ○説教の歴史      | 関山 和夫       |
| 岩波新書        | ¥ 320       |
| ○さわやかな人に    | 三枝佐枝子       |
| PHP研究所      | ¥ 840       |
| ○男百人男だけの肴   | 佐々木久子       |
| 鎌倉書房        | ¥ 980       |
| ○北の墓標       | 夏堀 正彦       |
| 中公文庫        | ¥ 300       |
| ○アメリカン・アメリカ | 犬養 道子       |
| 文芸春秋        | ¥ 1,000     |
| ○独りきりの世界    | 石川 達三       |
| 新潮社         | ¥ 1,000     |
| ○ことばの人間学    | 鈴木 孝夫       |
| 新潮社         | ¥ 980       |
| ○野外科学の方法    | 川喜多二郎       |
| 中公新書        | ¥ 380       |
| ○音楽展望       | 吉田 秀和       |
| 講談社         | ¥ 980       |
| ○岡崎の人物史     | 岡崎の人物史編集委員会 |
|             | ¥ 1,300     |

「お正月には、たこあけて、こまを回して遊びましょう。」と歌うものの、現代っ子のお正月は、テレビにかじりつき、テレビゲームに興ずる者も多い。竹馬にも乗れない、こまも満足に回せない、おじやみもできないでは情けない。

よし、三学期になったら、お正月伝承遊び大会でもやってやろう。

## シオシア

あひみての のちのおもひにくらぶれば  
むかしは ものをおもはざりけり  
百人一首に夢中になった学生時代。おはこは胸に秘めて大切に持ったものだった。高校生になる教え子が訪ねて来たので、百人一首をしようといふ机の上に置くと、

「ぼっずめくり?」蟬丸たち歌人も、さぞや幕の下で嘆くことだろう。

注連縄、標縄、七五三縄、いずれもしめなわと読む。神聖、清浄な区域や物であることを標示するためのもの。お宅の玄関先にもしめ飾りが取り付けられていることでしょう。ひよとして、しめなわ部分より飾りが主になっているのではないのでしょうか。本年も無事息災であることをお祈りします。

すばらしい人生を、ことしこそ、新年をむかえるたびにそう思って、自分に言いかけられているんです。バラのような明るさはもう遠い昔になってしまったし、落ち着いた悟りの境地には程遠いし。昭和一けた生まれは生活を楽しむことを知らないという。今年は何とつ、楽しく羽目をはずすことにするか。